

第3分区 I・Mのテーマ「水」原稿
水戸好文RC奉仕プロジェクト委員会
委員長 木村 美枝子

演題 人類と『水』

創立初年度RCが事業計画をするにあたって

「梅の木と井戸は辰巳の方角が良い」とは母の教えでした。実家の井戸は南東の方角にあり、その横に梅の木がありました。周りにお茶の木の垣根が巡らしてあって、母と並んで小さな手で茶摘をした記憶が、うっすらと蘇えます。蛇口をひねると水が出る時代に育っても、井戸の存在は郷愁そのものです。

現在は、日本の家庭のキッチンでは軽くレバーを押すと水が出て、公共の施設では触れることも無くセンサーが感知して水が出る時代です。水の供給に使う人のエネルギー（運動）消費量は国の科学と経済力次第でさらに小さくなっています。一方開発途上国の人たちは水を得るために多くの労力を費やしていることを知り、国連報告の水環境の悲惨さに胸が痛みます。私たちは日本に生まれ、教育され、社会人になり、国際社会のニュースに翻弄され、中東のドバイショックが生活に円高をもたらせば、デフレスパイラルを懸念しながらも、高級輸入ワインが安くなるかしらと目先のことを考えてしまう浅はかさです。

今、世界の『水』問題を真剣に考える・・・そうです！こんな機会が巡ってきたのも、水戸好文RCに入会して、ロータリアンになったからです。2009～2010年度のロータリー活動の強調事項として、『水』をテーマに捉え、学習できることに感謝します。創立初年度の私達のクラブはまだ何も実績がございませんので、皆様のクラブの事業を参考にご指導をいただきたいと考えております。今日は、今後の事業を計画するにあたって、基礎知識のおさらいといたしまして「人類にとって『水』とは」を再確認し、「私たちに何ができるのか」と思案を巡らせたことをご報告いたします。

地球生命と水

地球には約14億立方キロメートルの水があり、地球表面の60%以上は水で覆われています。地球上の生命は35億年前、この水の中から誕生して進化を続けてきました。人類も例外なく、人体の60%以上は水で構成されています。水は生命維持になくてはならずヒトは一日に約2～2.5リットルの水が必要です。その内飲料水として0.7から1.2リットル、食物から摂取する水は0.7から1.0リットル、そして、残りは体内から代謝水（栄養素が体内で代謝されて作られる）として生体を維持しています。生体内の水の機能は脈々と引き継がれ生命活動に必要な細胞を作り出し、次世代生命に託されてきました。

人類の定住と水

紀元前1万年前、中東レヴァント地方のナトゥーフ文化期の狩猟・採集民は「水」を常に求めた源泉を求めて、この地に導かれ定住を始めました。紀元前8千年頃までには1500人規模の集落が出来ていました。定住の始まりが、レヴァント地方、アナトリア南部、ザクロス山脈の天水農耕の始まりでした。大麦やエンマ小麦、豆類、無花果が栽培され、普遍的に水を供給した源泉の存在が近隣民族の妬みを掻きたてたので日干し煉瓦と石で城壁と塔が作られました。代表的な大規模の遺跡がイエリコの定住遺跡です。

世界の四大文明は、大河の州に発展し栄華を極めて国家を成立させてきました。象形文字、楔形文字は太古の遺物ですが、これらの文字から発展したフェニキア文字は現在のアルファベットの原形です。筆を渡いてバビルスを作る紙の製造工程に水を使い、国家の歴史的事象が記録されました。知識活動の源にも水が関わっていたのです。

出産と水

古代の海洋民族も山間民族も水中出産の風習がありました。世界の神話には水中出産がうかがえる話が数多く出てきます。なぜ、海や川の水中で出産したのでしょうか。産後の母体と新生児の洗浄を自然水の流れに任せる、気候や季節に左右されたでしょうが、理にかなった出産方法であったと思われます。

森羅万象の神々に守られて、新しい生命の誕生に清らかな水と神聖な流れが地球には備わっていたのです。

現在の生活と水

さて、現在ヒトが一生をととして摂取する飲料水は60トン、食べ物の量は50トンです。

この値は世界の平均値であって、先進国と開発途上国では大きな差があるのが現実です。

生きるために摂取する「水」と日々の人間の生活を維持するための「水」が飲料水と生活用水です。これらは上水です。上水は役割を終えれば生活排水になります。飲料水は排泄され、生活用水は洗い物や洗濯、シャワーやトイレの流水に使うと同時に排水されて下水になります。さらに、農業排水、産業排水と一緒に河川に流され、そこから、湖沼や海へと流れていきます。自然環境破壊に伴い水質汚染要因を押さえる厳しい規制が農業排水、産業排水に課せられています。しかし、私たちの家庭から出す生活排水が汚染源の70%になっているのが現状です。

まとめ

今日、世界人口の20%が水不足に直面しています。この数字は2025年には30%に拡大し、50カ国に影響が及びます。先進国も開発途上国もそれぞれの利害を超えて、地球規模で水環境を整えることが急務です。私たちにできることは（1）開発途上国で長期的なプログラムに従った安全な飲料水の確保（2）先進国の生活排水の環境汚染防止取り組み、の二つのプログラムと考えます。（1）はロータリー財団補助金が授与されたプロジェクト（2）は各クラブの1人ひとりから始められるプロジェクトとです。そこで、水戸好文RCは、女性の視点で生活排水浄化活動を推進し、地域に貢献たいと考えます。

10日前、ユバファアラブ・フランス連合銀行の在日総支配人と中東の国の独立記念日を祝う夕食会でテーブルを共にし会話を弾ませました。その数日後にドバイショックが押し寄せるとは・・・ドバイといえば、砂漠に大量の水を配して、「経済力＝水の量」水価格を征し、市場機構による水へのアクセスを可能にしたドバイ酋長国の建設中の金融都市です。

原稿を書き終えて、机上のエビアンで喉を潤す私も水市場の消費者の一人でした。